

馬の伝染性疾病の迅速検査法の開発

研究期間	平成 26 年度～平成 28 年度
課題番号	2606
研究実施機関	(大)帯広畜産大学
研究概要	2020 年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックでは、多頭数の馬術競技出場馬の輸入が想定されています。オリンピックを円滑に実施するためには、動物検疫所において、馬の検査を迅速にできるよう体制を整備する必要があります。 そこで、馬ピロプラズマ病の精密検査について、多検体処理が可能で、感度・特異度が高く、国内で診断薬の自給が可能な検査方法を確立するための研究を実施しました。
研究成果の概要	抗原の株により cELISA への適性が異なることや、適切なモノクローナル抗体が得られないこと等の問題により本研究の当初の成果目標である馬ピロプラズマ病(<i>T.equi</i> 及び <i>B.caballi</i>)診断用 cELISA の開発に至りませんでした。しかし、本研究で選抜された抗原を用いた間接 ELISA とイムノクロマト法が新たに作製され、これら 2 つの手法は、市販 cELISA より早期に抗体検出が可能であり、かつ従来の診断法と相関ある結果が得られることが確認されました。
行政における研究成果の活用方針(平成 29 年 9 月時点)	本研究により新たに作製された間接 ELISA とイムノクロマト法について、動物検疫所における馬ピロプラズマ病の診断技術の検討に活用する。

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載